

意見の整理

資料2-5

第2回審議会資料（資料2-1）に、第2回審議会における各委員の意見を追記。追記にあたって、内容の一部編集や分割、統合等を行っている。なお、資料の提示に係る意見を太字・下線としている。

分類		意見の内容	対応資料	
①	中長期的な施設の維持管理を効率的に行う必要があるのではないか	計画の期間や時期について	1 施設的に考えれば、数十年、30～50年という先の計画も必要。	
			2 当面の課題と将来計画を一体のものとして示す必要がある。	
			3 学校施設については、中期修繕計画がなく、建設→老朽化→大規模修繕（建替え）なのは疑問。	
			4 建物は必要な時期に的確な手当が必要。資料には優先順位が示されているが、被害が発生してから対応になっているようである。先手を取って計画修繕ということにならないか。	
			5 30年も50年も先の計画で考えれば、先々では統廃合や他の施設にも利用可能な施設の検討なども考えていく必要があるのではないかと思う。	
			6 予算の立て方について、修繕積立金という項目はあるのか。また、緊急の時は以外に、この窓の具合が悪いから少し待って、次に直していくなど、計画的に進めているのか。	
②	老朽化対応の優先順位の考え方について	1 資料6-2裏面の3「学校施設に関する主な要望事項（抜粋）」は、請願並びに教職員組合及び校長会からの要望であるが、安全・安心な教育環境の確保の観点から、資料6-1表面の3に記載の【優先順位】付けは妥当であるとする。		
		2 限りある予算の中で学校の環境を良くしなければならない。まずは学校の安全（こどもの安全）が一番だし、そこを置いて他に着手出来ない。		
		3 「学校施設の環境整備について」は、当然、教職員組合の要望である「ア」、つまり労働安全衛生法が定める、職場における労働者の安全と健康の確保、快適な職場環境の形成の促進を含むべきものではある。しかし、それらについては、別途取り扱うこととし、本審議会の議論では、児童生徒の学習・生活の場としての施設環境の整備に限定することが適当と思われる。		
		4 すべての学校で耐震化はしたけれど、老朽化が進んで、天井からボロボロ落ちてくるといった事態は、いろいろな自治体で起きている。ある意味、総合的に考えて計画をしていくということが大切である。		
		5 トイレの改善、空調の新設などの環境整備は当然だが、設備機器・配管等の老朽化対応でなく、学校設備として長期に使用できるものが望ましい。		
		6 <b>腐食についてどれだけ進んでいるかチェックしているということだが、資料があれば提供いただきたい。</b> やはり、そのデータによっては、優先順位についての議論も変わってくると思う。	調査中	
		7 子ども達の環境としてどうあるべきかという観点から考えた時に、音楽室へのエアコン設置を優先させる理由が「周辺へ音が漏れる」という事情というのは、これは子ども達のためなのかなと思った。予算の優先順位という点で、音楽室は1校に1教室しかないで、この金額を何かに置き換えるというのは難しいと思うが、何を優先させるかという面で考えると、これは正しいのかなと個人的には思ってしまった。そうした意味では特別支援学級等への設置は優先すべきであろうと考える。		
	トイレの環境整備について	8 生理現象であるトイレについては、優先順位として高いと思われる。トイレの洋式は早期に設置が必要と認識する。昨今、洋式しか使用したことがない生徒が多い中、和式トイレが使用できない生徒も存在することが伺える中で、和式で用を足せない、利用できない事で水分を控える、我慢する生徒が存在し健康被害にも結び付くのではないかと感じる。また、汚いトイレだと使用する側はきれいに使おうという心理からかけ離れた考え行動を起こしがちではないかと考える。		
		9 トイレの改修は本当に必要か？住んでいる隣の小学校では、西洋トイレは複雑なので保護者が年に何回か掃除していると聞いている。		
		10 良いとされているトイレの設置でさえ、長所・短所があるのだから。どんな施設にも良い点・悪い点がある。		
		11 和式が使えない子ども達も増えている状況で、洋式に替える必要もあると思うが、一律に替えていく必要はないのではないか。全体が老朽化しているのにトイレだけ替えるというのは予算の無駄になってしまうのではないかと。		
		12 企業という立場を離れて一人の母親として、もし、学校からアンケートが来て「トイレとエアコンどちらを優先したいですか」と聞かれた場合、うちの娘は和式が使えないが、個人の努力で和式トイレを使えるようにトレーニングすることはできるが、学習環境というのは、個人の努力ではできないなと思い、個人的には、エアコンの設置を優先するののも一つではないかなと思う。もちろん、トイレがそのままいいとは思わず、予算がさけるなら、改修すべきだと思うが、優先順位を逆にする考え方もあるのかなと思った。		
	13 トイレ老朽化による悪臭は問題だと思う。トイレの悪臭により、廊下側の窓が開けられないため、風のおりが悪く、教室内の温度上昇につながっている面もあるのでは。また、学校のトイレ全てを洋便器化する必要はないと思う。トイレ1か所につき洋便器が1穴でもあれば、問題ないのではないか。 <b>洋便器が1穴も存在しないトイレの箇所数や、そういったトイレの全体に占める割合等を知りたい。</b>	資料2-2		
	エアコン整備について	14 例えばヨーロッパだと、教室内温度28度以上で休校となる（Hitzefrei）。温暖化で夏の高温が加速する日本での夏期学習環境は劣悪。エアコン導入だけで解決する問題でもない。ましてや全室エアコン完備はまだ先のことになるならば、学期の在り方、長期休業の在り方も同様に視野に入れての議論をすべき。		
		15 例えば私の知る限りの校長先生や教員にエアコンの話を開くと「そりゃ、あった方が良いが、まあ、現在のところ夏休みが40日間あるなら、何とかなる。」とも言っていた。		
		16 夏の教育環境は劣悪の一言。あの環境で、子ども達が授業に集中しているとは思えないし、教える方も本当に大変だなと授業参観や普段の授業を拝見した際にそのように思った。なぜ、今まで声が挙がらなかったのかと思うほど劣悪。学校に関しては、全室エアコン整備というのを強く言いたいと思う。		
		17 老朽化が進んでいて非常に厳しい状況、予算も大変な状況といった中で、ここで、エアコンにすべてお金をかけるべきなのかと、考え込んでしまった。もし、つけるとしたら、今やっている音楽室とか特別支援学級から、そのあとは一年生からやっていくほかないだろうと思う。ただ、それとは別に一番大切なことは、資料2-2にあるように優先順位だと思う。子ども達の身体の安全という観点からエアコンがまるっきり関係ないというわけではないが、やはり、校舎の安全をきちんと維持していったほしいという思いがある。		
		18 <b>教室内温度をチェックされているようだが、例えば、所謂WBGTや湿度などを今後チェックしたらどうか。</b> 全部の学校でチェックするのは無理でも、いくつかの学校で、教室の種類によってどのように変わるなどをチェックしていけば、医学的に判断できると思う。医学的見地から、これでは教室の中で授業していくのは無理ではないかということなどを判断できると思うので、WBGTのような基準を使って、一回チェックしてもらえればと思う。	資料2-4	
		19 自分自身はエアコンがないと非常に苦しいが、周りの方々の中には「エアコンが苦手」といった意見もあり、一律に対応する必要があるのかと考えていた。また、千葉市は広いため、海の方と内陸、もしくは、各学校を取りまく環境によっては非常に温度差があるのではないかと、つまり、すべての学校にエアコンをつけなくても良いのではないかと考えていた。一方で、学校現場は非常に劣悪な状況だと聞いてしまうと、やはりエアコン設置は必要なのかなと思ったりもする。やはり、 <b>いろいろな条件が違う学校が、どのくらいの温度なのかを、すべてを詳しく調べることも必要なのではないかと思う。</b> また、施設の老朽化とエアコンの話はセットだと思う。老朽化について良く検討しないと、老朽化が進んでいるのに、エアコンを付けてしまうと、すぐ壊したり、外したりしなくてはいけなくなるなど非常に無駄になってしまう。そのお金は、他のことに使えるのではないかなと思う。	資料2-4	
		20 一般社会の中で、大人はエアコンのないところで仕事をするということは、あまり考えられない時代である。エアコンの設定温度を工夫するなど条件はあるが、設置する方が良いのではないかと考える。老朽化対策にお金をかけるとしても考えなければいけないが、家庭に帰ってもエアコンはあるし、普段大人が働く中では、エアコンがあることは当たり前になっている一方で、子ども達の通っている学校が、そういった状況ならば、ちょっと考えられない感じがする。 <b>学校施設に関わるエアコンの普及率といったデータもあればよい。</b>	資料2-3	
		21 エアコンの話題が市議会等でもあったとのことだが、個人的には、当然ながら潤沢な予算があれば、全教室に設置が可能ならば、ありがたいわけだが、この優先順位の中で、子ども達の安心・安全を大前提とすれば、エアコンのプライオリティがトップに来ることなどは考えられない。		
	防火設備の整備について	22 防火設備についても、何かあった時に命を守れないような不具合が発生しているのであれば、可及的速やかに改修を行うべきと認識します。火災・震災発生してから、〇〇の不具合で逃げ遅れや初期活動ができないような事例は回避すべき。		

分類		意見の内容	対応資料
③	新たなニーズに対応した環境整備について	1	現代、児童も多様化し、様々なニーズを持って学校に来ている。そのニーズ（例えばLGBTである子どもはどのトイレを使うのが人権尊重になるか等）に応えるために、よく検討する必要がある。
		2	資料6-1裏面の4「(3)計画策定にあたっての視点(案)」に例示されている事項の、『・「主体的・対話的で深い学び」など、次期学習指導要領で求められる学校施設』の意味するものが不明。
		3	これからの学校が地域の中でどのようにあるべきかということと連動して考えなければいけない時期に来ているのではないかと強く感じる。この4月に、地教行法が改正され、学校運営協議会について、教育委員会はその設置について努力義務を負うようになったということは、コミュニティスクールを全面展開しなくてはいけなくなってきているのではないかといえる。また、社会教育法も変わって、地域学校協働活動に関する規定が出てきており、これもまた学校が地域の中で位置づけられるということに係わっている。このようなことから、地域と学校の在り方は、施設と連動して考えることが、どうしても必要なのではないかと。
		4	コミュニティスクールを通して学校がどんどん地域に開かれていくのは大賛成。学校だけでは抱えられない問題はだんだん増えているし、どんどん地域を巻き込んでいくことは賛成だが、施設に関しては、だからといって地域の要望があって学校の施設をそこに適応させていくのは反対。あくまで、学校というのは子ども達の教育の場であって、教育を受けるためにどのような環境を整えていくかということが第一義的に大事なことであって、そこを違えてしまうと本末転倒になると思う。そういった意味では、あくまで子ども達が教育を受けるにあたって一番最適な環境、子供や教師にとって一番集中しやすい環境というものを意識して考えていくべきだと思う。
		5	学校施設を地域の人間が使うのであればということで、先ほどの空調の話は「あれば、いいなあ」と思った。地域が学校を大きく使う行事としては、お祭りや敬老会もある。これに限らず、何をやるにも地域としては、学校、学校である。そういう意味では本当に学校の設備は、地域の人間にとっても大変重要。例えば、トイレの問題についても、地域の利用も考えると外から入れるようにして頂きたいなと思うこともある。
	適正配置との関係について	6	本来、教育環境の整備という視点で、適正配置と一体に考えたほうが良い。
		7	小中一貫にすることで、学校の規模を大きくするとか、一方、地域の中で小中一貫校同士が連携することで、更なる規模を確保するとか、単体で見るとではなく、総合的に見る視点が必要だと思う。
		8	統廃合したあとの学校活用については同時に進めるべきという意見に賛成である。自治体や周辺の価値低下にならないよう、あとの活用を同時に計画する必要があると認識する。統廃合と廃校の活用・整備(改修・補修)三位一体での計画が必要だと認識する。議題5-①5-②同様統廃合すべての学校に対し100%同じ対応は無理としても、統廃合後速やかに何かで活用し自治体の価値が低下しない取組を策定していく必要があると思う。
	他の公共施設との複合化や再利用について	9	学校施設については、安全安心衛生面で優劣をつけた上で、その後の活用内容に応じた実施を行う必要があると認識する(廃校後の活用内容によって優先で改修項目が変わってくると思われる)。
		10	限られた予算でいかに箱を利用するかということも大切である。例えば、学校を有料老人ホームとして利用している事例などがあり、これだけ少子高齢化なので、アクティブシニアの活用も課題の一つである。例えば、学校の一部を保育所にするとか、それらの施設でアクティブシニアを活用してもらうとかも考えてもよいのではないかと。東日本大震災後に施設の作り方で、その地区の出生率が変わったという事例もある。学校ということに限らないで、他施設への併用や転用等も含め考えることも大切だと思う。
		11	学校だけで考えるのではなく、もしかすると、他の施設と複合化していくとか、空き教室を転用するとか、その代り施設は増やせないけど、総量は減らすとか、その分学校が少しそれを持ってもらうとか、もしくは、学校の統廃合をきっかけに別の施設として評価していくとか、施設としてのデータを取りながら学校に限らない選択をするとか、予算が潤沢ならば、どんどんできるわけだが、そうではないので、実態として難しく、工夫が必要である。
		12	違う施設として使うなどの各論をするのであれば、ある程度の条件が必要。
		13	児童生徒が減少する中での学校施設については、都内のある学校では、児童減少により廃校となった場合、高齢者向け施設として再利用することを想定し、予めバリアフリーで整備されるケースがあるようですが、本市においては、どのような取り組みを行おうとしているのでしょうか。
④	教育予算の最適配分について	1	限られた予算で優先順位をつけて対処していかなければならない現実を、少しでも改善したいのであれば、あらゆる要因を総合的に捉える視点に立つしかない。そのような審議展開を今後望む。
		2	どうしても、教育に関わる話は理想ばかりででくる。予算枠やさける人員など『限界枠』を示してほしい。その方が現実的な議論ができるし、工夫ができる。
		3	建物の老朽化、トイレ、エアコンなどの設備に目がいきがちだが、情報管理の安全性の視点から、教職員一人にPC一台を保証する環境整備も非常に大事。現実に情報紛失のトラブルは毎年起きている。
		4	新しい教育に対応した学校施設を検討する以外にも、新たなニーズという観点から、例えば、生徒のことだけではなく、教える先生のスキルアップも必要だと思う。先生自身が、もっといろいろな他の分野の経験、例えば外国で教育を受ける経験など、そうしたプランがあると良いと思う。日本の教育は、社会が要求するものと違うものが出てきているように思う。世界的に要求されるものは、もっと別のところにあるように思うので、そういったものを知ってほしいと思う。
⑤	議論の進め方について	1	委員の意見だけではなく、学校現場の先生の話聞きとって資料としてほしい。普段、施設を使っているだけではなく掃除をしたり管理する先生方の声も大切。
		2	要望は要望として、教職員組合や校長会ともよく意見交換をしていく必要があると感じた。
		3	子ども自身にも意見を聴く場があつてしかるべきではないか。千葉市では中学生は生徒会交流会を平成22年から行っている。その場を『これからの学校は?』という意見交換に使ったり、同じく平成22年から行っている子ども議会で『どんな学校にしていきたいか?』という議題で意見を聴いたり。又、小学生に絵を描いてもらったり。又千葉市は稲毛高校と千葉高校という優秀な子ども達が在籍する高校がある。そこで議論して一定の結論を出してもらおう。勿論、特別支援学校の子どもの意見も聞く。又PTAには保護者の意見をまとめてもらう。育成委員会には地域の意見をまとめてもらう。そのようにして地域、保護者、学校(こどもも教職員も)が我が事として考えてほしいし、意識(主権者、主体者、自立者)向上にもつなげていければと思う。
		4	エアコンに関しても、限られた予算の中で、優先順位をつけるかということは、審議会の議論としてはふさわしくないのではないかと個人的には思う。むしろ、学校を地域に開放していった時、つまり、地域と学校が一体となって地域の人が日常的に使う学校施設になった時に、エアコンは必要か必要でないのかということが議論されるのではないかと。施設そのものではなく、学校の在り方も含めて、話を広げていけると、審議会としてはいいのではないかと感じる。
		5	地域に根差す企業としても、学校に対して期待すること、お願いしたいこと、また、逆に企業として協力できることなど、様々なことがあるかと思っている。議論の中で、地域という言葉が出てくるが、その中でも、企業が求める人材をどうしていくのかということも含めて頂けると、さらにいろいろな具体的なアイデアが出てくるのではないかと。
		6	資料2-2において、事務局から優先順位のア、イ、ウというものが提示されているが、安心・安全ということを大命題としたときに、ア、イ、ウ、エのこの順位は動かし難いものがあると思うが、これで決定ということではなく、次回以降もこの優先順位について議論を続けていってはどうかと思う。エアコンについても、先ほどの優先順位とは別に広範囲な意見として議論していくべき問題だと思う。